

<知的障がい教育部中学部の実践>

1 研究授業一覧

| 授業日 | 単元名 | 授業者 |
|---------|----------------------------------|-------|
| 6月 7日 | 「数えてみよう どっちが多い？」 | 伊藤 牧子 |
| 7月 1 2日 | 「体の力を抜いてリラックスしよう 意識して、体を動かそう」 | 前田亜友子 |
| 9月 4日 | 「形を調べよう」 | 佐藤 亜紀 |
| 1 2月 5日 | 「時刻や時間を表わそう」 | 今野 豊和 |
| 1 2月 8日 | 「時刻や時間を表わそう」 | 今野 豊和 |

2 実践を進めるにあたって

今年度中学部では授業のステップアップを目指した授業づくりに取り組むために、学部独自の授業参観シートを作成し、複数の教員の授業を見合い、より良い授業づくりするために、感想や意見を参観シートに記入して授業者に渡すようにした。また、学習内容表や実態記録表を元に実態把握をし、前期終了時には小グループでの話し合いの場を設け学校生活とのつながりや生徒の取り組みの様子から学習内容を見直し、後期の計画作成へと生かしてきた。作成した授業参観シートは（図1）の通りである。

| | |
|-----------|------------------------|
| 単元名「 」 | |
| 授業者 _____ | |
| 日にち _____ | |
| 場所 _____ | |
| 1 | 授業のポイント（見どころ）生活にどう返せるか |
| 2 | 手立てはどうだったのか |
| 3 | 参考になったことは |
| 4 | 今後に向けて |
| 5 | その他 |

図1：学部独自の参観シート

3 実践を振り返って

(1) 学部の研究

①成果

- ・学部職員一人一人が生徒の実施記録をつけ、小グループで話し合い個別の指導計画の様式2の改善をすることができた。
- ・お互いの授業を見て参観シートを記入し授業者の良いところ、生活のつながりを意識して授業に生かすことができた。
- ・生活に生かせるような身近なところを意識して、幅広い内容で授業を組むことができた。

②課題

- ・生徒の実態に適した課題を把握していく。
- ・生徒が主体的に学ぶ姿を引き出すためのアプローチと表出を待つ姿勢を大事にしていく。
- ・実生活に結び付く学習を増やしていく。

(2) 授業実践

今年度中学部では、数学科の中で様々な内容を取り扱い、研究を進めてきた。また、生活とのつながりを意識した授業を行ってきた。

<研究過程について>

| 実施日 | 取り扱う内容 | 生活とのつながり |
|-------|--------|--|
| 6月 7日 | A数と計算 | <ul style="list-style-type: none">・日程表や工程表を見る順番が分かるようになる。バザーで「1つください。」などと言われたときに指導者と一緒に一つ渡した。(数量)・「多い」「少ない」を比較し数に親しみ学校生活の中の数字にも関心が持てるように取り組んだ。(比較) 図1から図3参照 |
| 7月12日 | 自立活動 | <ul style="list-style-type: none">・ストレッチの時間を20秒と設定し自分で数を数えた。・数の学習では、1～5まで積み木を活用し行った。・身体の動きに合わせて、ブロックを持つ、離す、数えるなどの活動を行った。・時計を読み、指導者に伝えることもあった。 図4、図5参照 |
| 9月 4日 | B図形 | <ul style="list-style-type: none">・図形の名称や形が分かることで、生活の中にある図形に気づくことができた。・生徒自ら自分が普段はいている上履きのソールの模様を見つけて形を意識することができた。 図6、図7参照 |

| | | |
|--------|---|---|
| 写真・使い方 |  |  |
| | ①同じ色のキャップをはめる。 (色合わせ) | ②色を手掛かりにキャップをする。左から1, 2, 3の階段状に数量を見てわかるようにする。 |
| |  |  |
| | ③色を手掛かりに数字と同じ数のキャップをはめる。 | ④数字だけを見て数字と同じ数のキャップをはめる。 |

図1 ペットボトルの蓋を活用した数字と数のマッチング

| | | |
|--------|---|--|
| 写真・使い方 |  |  |
| | ①左(1)から順番にストローを挿していく。 | ②ストローの長さを手掛かりに数字と同じ数のリングを重ねる。 |
| |  |  |
| | ③ストローの長さは同じにして、数字を見て左から1, 2, 3と入れる。 | ④数字の位置を変える。数字をしっかりと見てリングを重ねる。 |

図2 柔らかい資材を使用した数字と数のマッチング

写真・使い方



○数字とシールを手掛かりに、書かれた数字と同じ数だけ洗濯ばさみをはさむ。

図3 数字と数のマッチング



図6 図形の特性

< 自立活動の取り組みから >



図4 あぐら座の姿



図5 ブロック操作



図7 なかま分け

① 成果

- ・毎時間同じ流れにすることで、生徒たちが見通しをもち進んで取り組めた。
- ・個別の学習課題、教材を工夫することで時間いっぱい課題に取り組むことができた。
- ・全体指導で、友だちとかかわり合う場面を設けたことにより、生徒同士が学び合えた。
- ・実生活に結びつけた単元を組むことで、生徒の期待感が高まり、積極的に取り組む生徒の姿が増えた。
- ・教室の環境を整えることで授業に向かう姿勢が整った。
- ・学習したことを実生活で生かす生徒の様子が見られた。
- ・星本教科書を活用して指導内容に生かした。

② 課題

- ・振り返りの仕方については、個人差がある。即時に評価した方がよいのか、授業の終わりに発表の時間を設けてフィードバックすることがよいのか生徒に合わせた方法を探っていく。
- ・生徒同士で学び合うための発問を探っていく。
- ・活動のねらいに合わせて板書の情報量を精選し注目させたいところに焦点化していきけるとよい。
- ・ねらいや課題に沿って学習グループを工夫する。
- ・数学の単元を通して、ねらいにそった個別学習教材の工夫をしていく。

(2) 次年度に向けて

<授業づくり>

- ・振り返りの仕方や評価のタイミングは生徒に合わせて行っていく。
- ・全体指導を行う時に、生徒同士が友だちの反応を見て気付きお互い学び合えるような指導者の発問を工夫していく。
- ・教材を選ぶ時に、個に応じてICTを活用していく。
(例)・視覚支援の為に活用する。・アプリ教材を活用し繰り返し学習に取り組む。
- ・学習の経過から気付きが得られるような、掲示物の量にする。
(学習で使用したもの)
- ・周りのヒントや気付きが得られるような教室環境の整備をする。
- ・授業時に集中できるような教室環境を図る。→正面の掲示物や情報量の配慮。

<教材>

- ・星本を参考に、様式2の項目を選定し時期や単元内容を考えていく。
- ・数学で学んだことが他教科へのつながり、広げられるように工夫していく。
(横の繋がり)
- ・机上だけの学習だけでなく、実生活へ般化していく。